



とらいあんぐる



2018 年 1 1 ・ 1 2 月

一音会ミュージックスクール発行

「家族の形」

今回は、とても個人的な話をします。
そのせいで、私の個人的な価値観が
強く出てしまっていると思います。

1つの考え方、ということで、さら
りと流していただけると幸いです。

私はつい先日、結婚記念日をむかえ
ました。数えてみたら、ちょうど20
年になっていました。思えば、長い長
い年月でした。

ところが私は、夫と一緒に住んだこ
とがありません。

この20年間ずっと、です。

結婚後、事情でそうってしまった、
ということでもなく、最初からその予
定でした。

ちゃんと説明しようとするとなくな
ってしまうので、「夫は単身赴任で」と
説明したりもしてきましたが、少し違
います。単に、結婚前が遠距離で、結
婚後も遠距離だったのです。

夫の勤務先は、東京から離れていま
した。私は、母の介護があり、母のそ
ばを離れることができませんでした。
その母は、一音会のそばを離れること

ができませんでした。

結婚を決めた時、決めるべきは、結婚後の2人の生活をどうするかではなく、単に結婚するかしないか、だけでした。

逆に、それ以外のことは、ビクとも動かなかったのです。

私にとって母の介護は、3歳の時から続けてきた“ライフワーク”でした。それを辞める時は、私が死ぬ時だと、思っていました。結婚ごときで辞めるはずもありません。

当時、夫も私も、結婚という形をとるかどうか、その1点だけ、考えれば良かったのです。実は、とっても楽でした。

住む場所も仕事も、変えなくてはいけないことは、1つもありませんでした。何1つ、捨てず、何1つ、あきらめず、です。

あきらめることがあるとすれば、「夫婦一緒に住むこと」でしたが、理屈っぽい夫は、「今、一緒に住んでいないの

だから、それは現状維持ということ。あきらめる、という言葉はあてはまらない」といいました。

夫よりもずっと保守的で、頭のかたい私は、その時、納得しきれない顔をしたのかもしれませんが。

夫はさらに、「今より悪くなることは絶対ない。何も失わないのだから」と、キッパリいいきりました。

私は、その時、「確かにそうだなあ」と思ったのです。

同居しないまま結婚することについて、結婚当初は、本当にいろいろなことをいわれました。

多くの方は、「ま・・・あ・・・あ、新しいスタイルなのね。今の若い方っていうのは、いろいろおもしろいことをお考えになるのね・・・ホホホ」といった、ものすごく遠慮したコメントでした。

賛同していない、ということは、顔に書いてありました。

すごく正直な方は、「そんな結婚、絶

対うまくいかない！」と怒りを見せました。

理解が苦しい方は、「でも、でも・・・いつかは、同居するってことだよな？」と、賢明に納得しようとしてくれました。

同居せずに結婚することは、世間的に、とても変なことでした。

当時、たくさんの方の反応を見せられ、つくづく思い知らされました。

夫は男社会にいて、さらに多くの圧力があつたと思われませんが、私には一言もいいませんでした。

20年経って、時代が変わり、考え方が自由になり、価値観も多様化しました。でも今も、そんな形の結婚は変だと思われるでしょう。

これから先も、きっと変です。

この形がスタンダードになることは、これからもないでしょう。

自分の歩んだ道を正当化するわけはありませんが、私は、いろいろな家族の形があつて良いと、今、強く思う

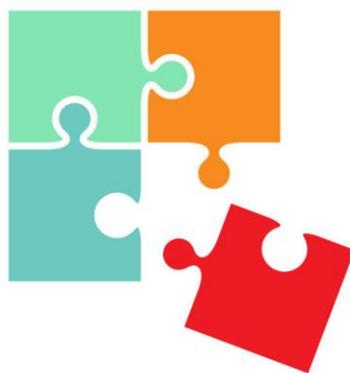
のです。

結婚にかぎらず、「こうでなくちゃいけない」なんてことは、実際にはとても少ないのではないかとさえ思います。

若い人には、「世の中、みんながこうしているから、こうでなくちゃいけない」なんて思わないでほしい、と思います。

普通と違う家庭であつたからうまくいかない、なんてことはありません。人は同じじゃありませんので、ある人にとって、うまくいったことが、別の人でうまくいくとはかぎりません。

他人のことは参考になるかもしれませんが、あくまでも参考です。人や状況が違えば、何もかも違います。



夫と私の生活は、この20年、ほとんど変わりませんでした。

夫は、金曜日の夜か土曜日、私の住む東京の家に帰ってきてくれます。週末を一緒に過ごし、月曜日の朝、出勤していきます。平日は、別々です。

結婚してすぐ、私はあることに気づきます。同居していたとしても、平日に2人の時間を合わせることが実際にはできない、ということです。

私もそれなりに忙しかったのですが、夫はさらに忙しく、平日は帰って寝るだけの人でした。夫が「平日は一緒に住まなくて良い」と繰り返しいっていた意味が分かり、私も少しほっとしました。

毎週、東京に来る夫の負担はあります。いつもそのことを申し訳なく思う私に、夫は「その分、平日、時間を気にせず、仕事に打ち込めるからありがたい」といいます。

実際、研究室から徒歩5分のマンションに住む夫は、帰りたい時に自分の

部屋に帰って休み、時間にしばられない仕事ができているようです。

もちろん、この結婚の形で、圧倒的に得をしているのは、私です。

私は、母が死ぬ瞬間まで、母のそばにいたことができました。もうそれだけで、私は自分の人生に悔いがありません。

母の介護がなくなって、今度は私が一音会から離れられなくなりました。

1日も欠かさず母のそばにいて、母の仕事を手伝ってきた日々がなければ、今日の私はないでしょう。

母は自分の世話をさせているようであり、実は仕事の引き継ぎをしていました。結果的に、これ以上、時間のかけようがないほど、丁寧な引き継ぎ作業をおこなってきたことになります。この20年に感謝です。

また、夫はこの20年で何度か勤務地を変えました。一番、近い時は筑波大学、一番、遠い時は東北大学です。

もし私に母の介護という事情がなく、

夫の勤務地についてまわっていたら、私の仕事はその都度、寸断されていたのだと思います。

私は、自分たちが採用した形がベストだというつもりは、毛頭ありません。ただ、世間的にはものすごくおかしな形であっても、私にとっては、ものすごく都合の良い形の1つであったなあと思うのです。

細かいメリットをあげれば、「掃除と手のこんだ料理は週末だけやれば良い」等もあります。

家事が好きではない私にとって、この20年間にまぬがれた家事の作業量は膨大で、それだけでもたいへんありがたいことでした。

結婚後、10年くらい経った頃から、何人かの人に、こんなことをいわれるようになりました。

「今だからいえるけどね。あなたたちが結婚した時、この結婚、絶対うまくいかない、って思ったのよね。案外、続くものなのね～」

家族の形なんて、それぞれで良いのかもしれない。

外から見て、どんなにおかしくても、です。

かかわる人に無理がないことが一番だと思います。

やりたいことを辞めることもない。辞めたくない仕事を辞めることもない。転校したくないのに転校することもない・・・。

それぞれの家族にとって一番良い形は、それぞれです。

だから、若い人には、「自由な形を描いてほしい」と願います。



「結婚とは、こういうものだ」と決めつけてしまうと、結婚に二の足を踏む人が増えるでしょう。

20年前でさえ、私は正しい結婚の形におさまることができませんでした。

今は、女性も高学歴になり、責任ある仕事を持ちます。今を生きる人は、選択肢が増えた分、難しい課題を何重にも抱えているように見えます。

あらゆる形を認めなければ、誰かに負担が集中することになるでしょう。

「結婚」を他のことに置き換えても、実はそうなのではないか、とも思います。

「勉強」だって、「仕事」だって、他の多くの人とやり方が違っていても良いはずです。あらかじめ形を決めてしまうと踏み出せません。

夫と私が選んだ結婚の形が良かったと結論するのは、まだ早いでしょう。それは、人生の最後になってみなければ分からないことです。

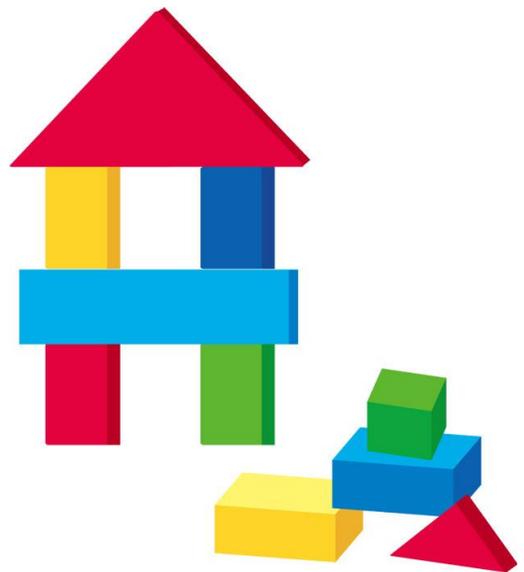
普通の夫婦が毎日顔をあわせること

によって、埋めてきた溝が、もしかしたら私たちには埋まっていない溝であり、これから私たちを苦しめることになるのかもしれませんが。

また、夫が定年をむかえた時、私たちは普通の夫婦以上に大きな変化を経験することになるでしょう。それは“危機”なのかもしれません。

一緒に住んだことがないのでから！

でも、その時また、私たちの「家族の形」を作りなおす契機になるとしたら、それはとても楽しみなことなのです。
(江口 彩子)



◆「音楽の集い」を開きました

1月4日（日）に、20回目の「音楽の集い」を開きました。「音楽の集い」は、おとなの方の発表会です。

ピアノあり、歌あり、曲目も多様で、たいへん充実した会になりました。ご参加くださった方は、小さな頃から一音会に通い、おとなになった今も勉強を続けてくださっている方、一音会卒業生で、今はお子さまを通わせてくださっているご父兄、あるいは、お子さまを通わせるうちに、ご自身もおはじめになったご家族の方、おとなになられてから音楽をおはじめになった方など、顔ぶれが多様で、嬉しい出会いや再会がたくさんありました。お若い方は大学生、最年長のご参加者は92歳でした。

休憩時間や終了後は、お茶やお菓子を囲み、楽しい交流もできました。ご参加くださいました方と、客席からあたたかな応援をお送りくださいましたお客様全員に、心から感謝しています。

来年の文化の日は、第21回目の「音楽の集い」です。1年後、また楽しい時間を過ごしましょう。この会が、100回続くことを祈ります。

今、ピアノをなさっていない方も、1年あれば、舞台に上がれます。「はじめてみようかしら？」と思われる方には、無料体験レッスンをお受けになってみることをおすすめします。

先の項でも触れていますが、1月中旬より、教室では「新年キャンペーン」をおこないます。一音会でピアノのレッスンを受講したことがない方にかぎり、体験レッスンとして、30分のピアノレッスンを無料でお受けいただくことができます。

「キャンペーンは、子どものためのもの」という理解の方がいらしたら、それは誤解です。体験レッスンは、年齢を問わず、どなたでもお受けいただけます。

お子さまにつきそって、教室においでになっているご家族の方、お子さまのレッスン中の時間を利用して、体験レッスンを受けてみませんか？

◆客員教授、ダイアン・アンデルセン先生が来日します

すでに教室の中に貼り紙をしてお知らせしていることですが、アンデルセン先生が左足を骨折され、来日が延期となってしまいました。ご予約をあけてくださった皆さまには、たいへんご迷惑をおかけいたしました。本当に申し訳ありませんでした。

以下の日程に変更となっています。

レッスン	: 12月12日(水)・14日(金)
コンサート	: 12月15日(土)

おケガは順調に快復し、コンサートも開催いたします。

12月15日(土)のコンサートは、15:30開場、16:00開演です。会場は「ひびきホール」です。

今年は、ドビュッシー没後100年にあたる年であり、特別にそれにちなんだプログラムをお組みいただいています。師走のお忙しい時期ではありますが、今年という年をふりかえるにふさわしいコンサートになるでしょう。お一人でも多くの方に足をお運びいただけますよう、願っています。

以前の日程で前売り券をお求めになっていて、新日程でご都合のつかない方は、払い戻しをしておりますので、ショパンはうす受付におっしゃってください。新日程でいらっしゃれる方は、そのままのチケットでご入場いただけます。

◆「ピアノ・トライ」にご参加ください

2019年1月より、「ピアノ・トライ」をおこないます。1年のはじめであり、年度をしめくくろうという時期でもあります。

この1年の進歩を確認し、これからさらなる成長へとつなげるための、大切な行

事です。

コメンテーターの先生は、過去にご参加くださった際のデータもふまえ、生徒さんの成長を見ています。1年に1度の「定期診断」とお考えになって、ぜひご参加ください。

お申し込みいただける日は、12月5日（水）と12月8日（土）の2日です。先着の方を優先に、ご希望の時間帯に入っていただくため、たいへん勝手ながら、お電話のみで受け付けさせていただいております。一度に6本つながる回線で受けておりますが、時間によってはそれをこえる方がかけてくださることもあり、つながりにくいことがあるかもしれません。その場合は、申し訳ありませんが、おかけなおしてください。

くわしい要綱については、先月号の「とらいあんぐる」に載せましたので、ごらんください。

なお、「ル・コンセール」は、2月10日と3月3日の2回、予定しております。「ル・コンセール」とは、「ピアノ・トライ」ですてきな演奏をしてくださった生徒さんに、ご出演をお願いするコンサートです。「ル・コンセール」は、参加費無料です。

◆「フォルテの会」を開きます

2月3日（日）に、「フォルテの会」を開きます。場所は「ひびきホール」、入場は無料です。

「フォルテの会」は、ヴァイオリン、フルート、作曲、声楽などの副科と、「うたくらぶ」（合唱）の生徒さんたちの発表会です。今年の講師演奏は、加藤裕子先生の独唱を予定しています。副科に興味をお持ちの生徒さんやご家族の方には、ぜひ足を運んでいただきたいと思います。

「フォルテの会」についてのくわしいご案内は、追ってプリントをお配りするとともに、ポスターでもお知らせいたします。

◆在籍生徒さん向けのキャンペーンについて

例年、1月中旬より、生徒さんが新年度からのレッスンをお決めになるお手伝いとして、いくつかの体験レッスンをご用意しています。毎年、多くの生徒さんがご利用くださっています。

体験したら、そのコースをとらなくてはいけない、ということは、一切ありませんので、お気軽におためしてください。

今年度の体験レッスンは、3種類です。お分かりにならないことは、ご遠慮なくおたずねください。ご相談に乗りながら、おすすめの体験レッスンをご案内いたします。

1. アドバンスAのピアノレッスン30分体験

アドバンスAの先生のレッスンは、通常、体験していただく場合、体験料のご負担が重いですが、キャンペーン受付期間（2019年1月15日～2月17日）にお申し込みいただいた場合にかぎり、お一人1回、下記の体験料でお受けいただけます。

30分レッスン 2430円 （全ての曜日共通）

「〇〇先生のレッスンを」と、担当先生を指名していただくことができます。

すべての方が対象です。アドバンスAのレッスンをすでに受けていらっしゃる生徒さんも、他の先生のレッスンをおためしいただけます。

「どの先生で受けたら良いか分からない」という場合は、本部にご相談ください。

2. リトミックレッスン無料体験

原則として、お一人、1回とさせていただきます。（年齢構成や担当や曜日など、複数回おためしになりたい場合は、ご相談ください。）すべての方が対象です。

特に、現在、リトミックをお受けになっていらっしゃらない方は、ぜひ体験レッ

スをお申し込みください。かつてリトミックをなさっていた方も、今現在の年齢のクラスをおためしになることをおすすめします。

最近、リトミックのレッスンを受講しない生徒さんがいらっしゃいますが、リトミックでしか扱わない教材もあり、原則、すべての方におとりいただくことをおすすめしています。リトミックでは、主にリズムや表現を学んでいただきます。

一音会を卒業した生徒さんの中で、演奏家として活躍されている方は少なくありませんが、皆さん、例外なくお小さい頃からリトミックを長い間受講していました。

3. レギュラーのピアノレッスン30分無料体験

お一人、1回のみとさせていただきます。

現在、ピアノを受講していない生徒さんにかぎります。

現在、リトミックを受講していらして、ピアノをおはじめになることを検討していらっしゃる生徒さんに、ぜひ活用していただきたいと思います。

ピアノをおはじめになる年齢に達していらっしゃる生徒さんで、まだ絶対音感のレッスンをお受けになっていない生徒さん(ベビーリトミッククラスの生徒さん等)は、絶対音感のレッスン(20分)を無料でご体験いただけます。

1と2は、2019年1月15日～2月17日、3は、2018年1月15日～4月20日を、キャンペーン受付期間とさせていただきます。



◆ヨガを体験してみませんか

「ショパンはうす」のリトミックのお部屋で、ヨガのレッスンを開催します。

指導する先生は、太田沙織さん。バレエダンサー、振り付けの仕事を経て、現在はヨガの指導者の資格をとり、ヨガの指導をおこなっています。

太田さんは、山形県から長年、わざわざ一音会にお通いくださっていた、古くからの生徒さんです。このたび、一音会にお通いの生徒さんやご家族の方対象のコースを、考えてくれました。

一音会のレッスンにいらっしゃるついでに、ヨガを体験してみませんか。お子さまがレッスンをしている間に、ご家族の方がヨガを体験することもできますし、親子でヨガを体験することもできます。

ご興味がおありの方は、「ショパンはうす」受付で、資料をご請求ください。

① 60分コース（2名様～） おひとり 3000円（体験レッスンは1500円）

② 30分コース（2名様～） おひとり 2000円（体験レッスンは1000円）

③ 親子ヨガ30分（2名様） 2名で 3000円（体験レッスンは1500円）

※③はお子さま2人で受けることもできます。3人以上は、お子さま1人追加ごとにプラス500円となります。

開講日 【下記の時間内、（ ）内の内容でレッスンを開講できます】

水曜日（①②）10:00～11:00、11:30～12:30

金曜日（①②）13:00～14:00、14:30～15:30

土曜日（②③）10:00～10:30、11:00～11:30

日曜日（②③）13:00～13:30、14:00～14:30

完全予約制です。ご希望の方は、本部にお電話ください〔03-5966-7711〕。

ヨガマットは「ショパンはうす」にご用意しています。タオルのみご持参いただきます。

◆風邪の季節になりました

寒くなり、またインフルエンザのシーズンがやってきました。

スタッフも、普段以上に、体調管理に注意を払うとともに、生徒さんの間で感染がおこらないよう、気を配っています。

生徒さんにも、レッスンの前後に手を洗うなど、予防につとめていただきたいと思います。咳やくしゃみが出る場合は、マスクをご着用ください。教室でも使い捨てマスクをご用意していますので、ご入用の際は受付でおっしゃってください。皆で元気に冬を乗り切れますよう、ご協力を、よろしくお願いいたします。

◆1年間、ありがとうございました

はやいもので、今年も終わりが近づいています。

今年も無事に1年を終えることができますのも、生徒さん、ご家族の皆さまの、惜しみないご協力のおかげです。1年間、本当にありがとうございました。

新しい年が、皆さまにとって、素晴らしい年になりますことを、願ってやみません。

冬休み中、一音会本部は12月22日（土）より1月6日（日）まで、お休みをいただきます。勝手ながら、その間は、電話でのご相談もお休みさせていただきますこと、どうかご了承ください。

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。



2018年のあゆみ

1月8日	2018年 レッスン開始日	
1月27日・28日, 2月4日・12日・17日・18日	全 6日間	
	ピアノ・トライ	於 バッハはうす
2月4日	第19回「フォルテの会」	於 ひびきホール
2月11日	第60回「ル・コンセール」	於 ひびきホール
2月25日	第61回「ル・コンセール」	於 ひびきホール
3月15・16日	プリドノフ先生ご夫妻 レッスン	於 ヘンデルはうす
3月18日	プリドノフ先生ご夫妻 コンサート	於 ひびきホール
3月21日	第12回「ジュニア・コンサート・オーディション」	於 ひびきホール
4月8日～	2018年度レッスンスタート	
4月23日	第12回「ジュニア・コンサート」	於 ゆめりあホール
7月14日～26日	リハーサル・トライ	於 ヘンデルはうす
8月3日～6日	2018ピアノ発表会	於 成増アクトホール
11月4日	第20回「音楽の集い」	於 ひびきホール
12月12・14日	アンデルセン先生 レッスン	於 ヘンデルはうす
12月15日	アンデルセン先生 コンサート	於 ひびきホール
12月21日	2018年 レッスン最終日	

